



令和8年産（7年播種）



# 麦類の生育概況 vol.3

埼玉県マスコット  
「コバトン」

（令和8年2月10日現在）  
埼玉県農業技術研究センター

## 要 約

- ◎気象概況：1月の平均気温は平年並で日照時間も多かった。降水量は1.5mmと少なく、平年の4%であった。
- ◎生育状況：12月、1月と降水量が少なかったことから生育は緩慢で、播種が遅れたほ場では分けつの発生が遅れている。
- ◎今後取るべき技術対策
  - ・踏圧(麦踏み)：莖立期までに10日～2週間間隔で2回程度を目標に実施する。2月後半以降の気温上昇による莖立期の早まりに注意する。
  - ・追 肥：生育と麦種に合わせた追肥を実施する。
  - ・排水対策：排水機能を保つよう明きよと排水溝の点検補修を行う。
  - ・雑草防除：雑草が生長し始める条件となってきたため注意する。発生したほ場では雑草の種類と葉齢を確認した後、適期に防除を行う。

## 1 気象の概況

1月の平均気温は、第1半旬が平年並、第2、6半旬は平年より低く、第3半旬は高く、第4半旬はかなり高く、第5半旬はかなり低く、月平均では平年並となった。降水量は、1月2日に1.5mmの降雨があったほかは0.5mm以上の降雨がなく、月合計では平年比4%となった。日照時間は、第1、2、4、6半旬は平年並、第3、5半旬はかなり多く、月合計では平年比115%となった。

## 2 生育の概況

### (1) 所内生育相

ア 小麦（「さとのそら」：11月25日播種）

1月の平均気温は平年並に経過し、降雨がほとんどなかったものの、1月26日時点の草丈、莖数はおおむね平年（令和2～6年播種の5か年平均）並となった。一方、1月の第3、4半旬の高温により、葉位の進展はやや早まり、0.3枚程度多くなった。積算気温から予測される莖立期は、平年より5日程度遅いと予想される。

イ 大麦（「ニューサチホゴールデン」：11月25日播種）

1月の平均気温は平年並に経過し、降雨がほとんどなかったため、生育は緩慢となり、草丈、莖数、葉位は平年（令和5、6年播種の2か年平均）を下回っている。積算気温から予測される莖立期は、平年より8日程度遅いと予想さ

れる。

## (2) 県内全般

11 月末までに播種されたほ場の面積割合は、大麦で9割（平年並）であったが小麦では6割（平年比8割）に留まっている。その後の気温は平年並であったものの、降水量が少なかったことから、県内全体の生育は平年並～やや遅れている。11 月中に播種されたほ場では、2回目の麦踏みも行われている。12 月に播種されたほ場でも、低温と乾燥により出芽までに日数を要したが、2月上旬にはおおむね麦踏みが可能な状況となっている。

## 3 今後の生育予測

### (1) 気象予測

気象庁の1か月予報（2月5日発表）では、平均気温は高く、降水量は平年並か少ない、日照時間は平年並か多く、晴れの日が多いと予報されている。

また、3か月予報（1月20日発表）では、3月、4月とも平均気温は高く、降水量はほぼ平年並で、晴れの日が多いと予報されている。

### (2) 生育予測

向こう1か月の平均気温が高く晴れの日が多いと予報されていることから土壌が乾燥傾向となり、肥料の溶出や吸収が進まず分げつの発生が少なくなると見込まれる。この状態で3月の高温に遭遇すると、茎数が少ないまま茎立期を迎えることが見込まれ、遅れ穂の発生が懸念される。

## 4 今後取るべき技術対策

### (1) 麦踏み

耐倒伏性や耐寒性の向上、分げつや根の発生促進を目的に、ローラーに適度なおもりを載せて丁寧に行う。

茎立期までに10日～2週間の間隔を空け、2回程度を目標に必ず実施する。12月以降の播種で、生育が遅れているほ場では3枚目の葉が確認できたら実施するが、過度の麦踏みはかえって生育を阻害するため回数を減ずる。

また、今後の急な気温上昇による茎立期の早まりに注意し、生育状況を確認してから行う。

土壌水分が高くローラーに土がつくような場合には麦踏みは行わない。

【参考】さとのそらの場合は偽茎長が7cmに達した頃が茎立期（稈長2cm）にあたる（偽茎長とは平均的な株の地面から最上位の展開葉の葉節（葉耳部分）までの長さ）。

### (2) 追肥

小麦は、「さとのそら」の追肥体系では出穂2週間前（平年4月上旬）に窒

素成分で3～4kg/10aを目安に施用する。ただし、莖立期後の機械散布が困難な場合は、莖立期直前（平年3月上中旬）に実施する。「あやひかり」は窒素成分で2kg/10a（平年2月下旬から3月上旬）を施用する。

ビール麦は、前年産のタンパク質含有率分析結果から施用量及び施用時期を調整する。高タンパク質の指摘があった場合は窒素成分で1.5～2kg/10a（平年2月上旬）、低タンパク質の場合は窒素成分で2kg/10a（平年2月下旬）を目安に施用する。

六条大麦は、窒素成分で1.5～2kg/10a（平年2月中下旬）程度施用する。

また、12月中旬以降に播種されて莖数が少ないほ場にあつては、追肥の多用は倒伏や遅れ穂の発生につながるため、追肥を見合わせるか5割程度減らして行う。

### （3）排水作業

近年まとまった降雨や降雪が多いことから、排水溝の不備は滞水時間が長くなり湿害を招きやすい。麦踏み等で明きょが埋もれていないか、外部の排水路と連結されているか等を確認し、不備があれば速やかに補修する。

### （4）雑草防除

雑草は気温が低い時期は小型で暗緑色や赤褐色を呈し、土壌と識別しにくい。また、雑草は草丈があまり伸びずに葉齢が進む。このため、発生始期の見逃しや、葉齢の見誤りから防除適期を過ぎてしまう危険性があるため注意が必要である。注意深く雑草の種類と葉齢を確認し、処理適期を逃さぬよう確実に除草剤散布を行う。

### （5）病虫害防除

赤かび病の防除適期は地域や麦種によって異なるが、3月下旬から4月下旬頃である。県内では共同防除を行っている産地が多いので、早めに防除計画を検討し防除体制を整える。

防除薬剤の選定にあたっては、同一薬剤の連用は避け、うどんこ病にも登録のある薬剤を選定し同時防除することが望ましい。

令和6、7年産麦では、ほ場で赤かび病が多発し、倒伏したほ場では罹病粒から健全粒への感染拡大も見られた。気温が高く曇雨天が続くと予報された場合には、感染防止を目的とした初回散布だけでなく、2～3回防除を行なう必要があることから、病虫害防除所の発表する病虫害発生予報等を参考に防除体制を整えておく。

## 解析・考察に用いた具体的数字

### 1. 1月の気象表（熊谷气象台日別測定値から集計）

半旬	平均気温(°C)		最高気温(°C)		最低気温(°C)		降水量(mm)		日照時間(hr)		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
1	4.4	4.6	10.7	10.4	-0.8	-0.1	1.5	3.5	38.1	36.0	
2	3.4	4.4	9.5	10.0	-1.2	-0.3	0.0	4.2	37.3	35.7	
3	5.4	4.2	12.9	9.7	-0.2	-0.4	0.0	6.0	44.1	34.6	
4	7.5	4.1	13.5	9.4	2.1	-0.5	0.0	7.0	38.6	33.6	
5	2.2	4.1	8.4	9.5	-2.8	-0.5	0.0	7.0	43.2	33.8	
6	3.5	4.2	9.2	9.8	-1.3	-0.5	0.0	8.2	49.1	42.8	
平均	4.4	4.3	10.7	9.8	-0.7	-0.4	合計	1.5	36.5	250.4	217.0

### 2. 生育状況

品種名	調査日	草丈(cm)		茎数(本/株)		葉位(L)		風乾重(g/100本)		風乾歩合(%)	
		本年	平年比	本年	平年比	本年	平年差	本年	平年比	本年	平年差
さとのそら	1月5日	10.2	103	1.0	84	2.5	-0.1	4.3	96	25.8	1.1
	1月15日	10.2	101	2.2	120	3.3	0.2	6.8	112	25.5	1.1
	1月26日	10.2	102	3.1	101	4.2	0.3	10.6	120	25.9	1.9
ニューサチホゴールデン	1月5日	10.8	98	2.0	81	2.5	-0.4	6.3	80	18.0	0.7
	1月15日	11.7	102	3.0	83	3.4	-0.5	9.7	74	18.9	0.9
	1月26日	11.8	98	4.6	82	4.4	-0.4	16.3	79	19.0	2.4

注1. 平年値はさとのそらが令和2～6年播種の5か年平均、ニューサチホゴールデンが令和5、6年播種の2か年平均（以下同様）。

注2. 風乾重は100個体当たりグラム、風乾歩合は風乾重/生体重。

注3. 平年比は%。

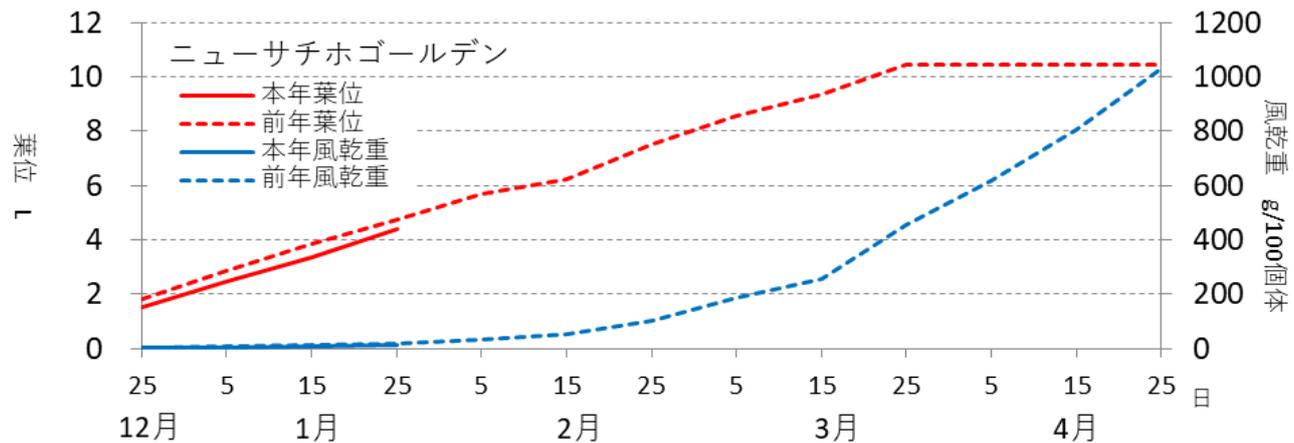
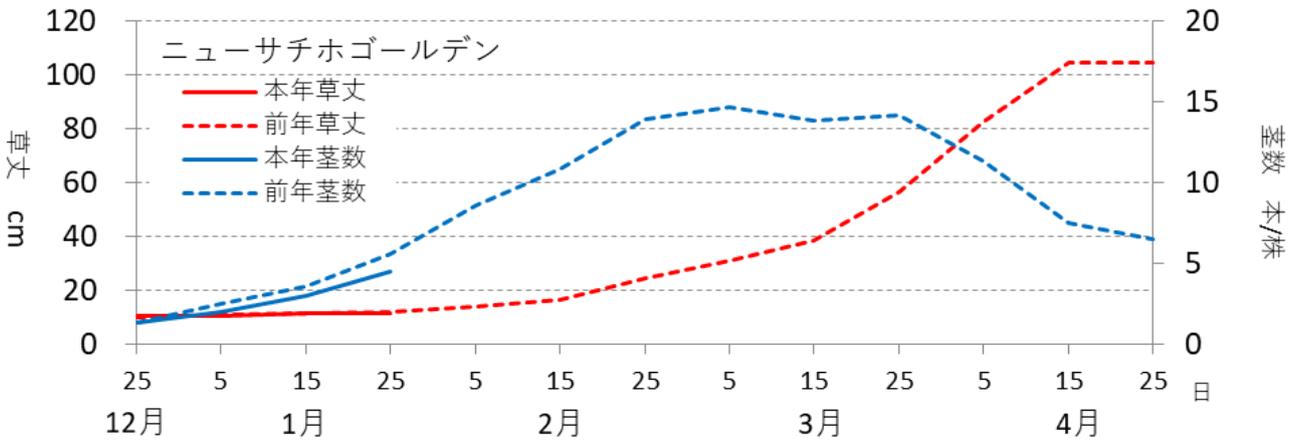
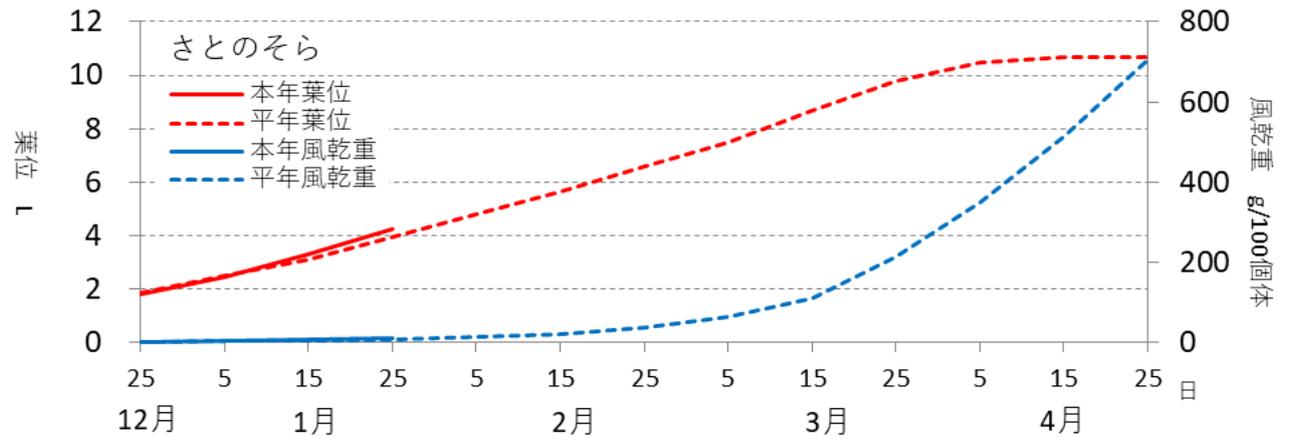
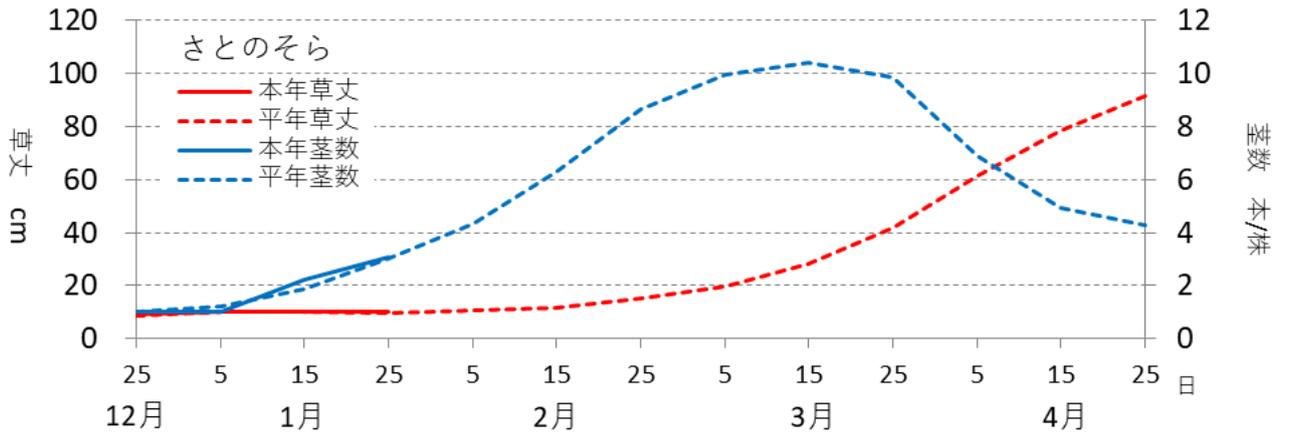
### 3. 茎立期の予測（11月25日播種）

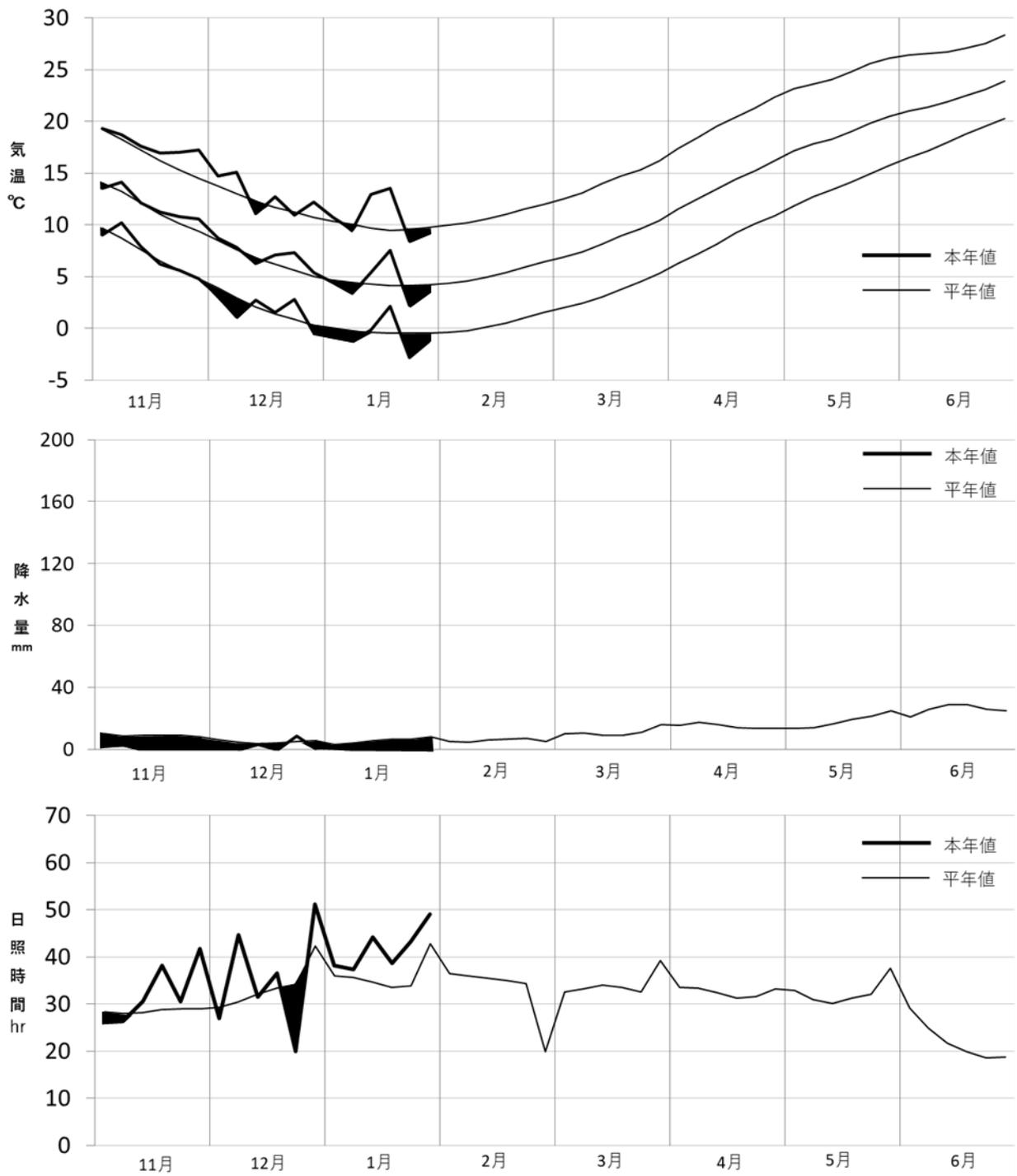
品種名	平年値		積算気温から予想される 本年の茎立期
	茎立期	播種日からの 積算気温	
さとのそら	3月14日	724	3月19日
ニューサチホゴールデン	3月2日	654	3月10日

注1. 積算気温は平年値、本年とも麦調査年における熊谷地方气象台日平均気温の積算値を使用。

注2. 本年の茎立期予想には1月31日までは气象台測定値、2月以降は气象台平年値の日平均気温を使用。

4. 生育経過（11月25日播種）





令和7年播（8年産）冬作期間気象図  
 （熊谷地方気象台日別データより作成）